

カリキュラムづくりと総合学習部会

I 研究主題 豊かで創造的なゆとりある教育課程の編成 ～総合学習の可能性を今、社会へ発信しよう～

II 主題設定の理由

全国的な研究会の中で、福田誠治都留文科大学教授は、「今、必要な学びと教育格差について考える」をテーマに行われたシンポジウムの中で、カリキュラムと子どもの評価について、「子どもはそれぞれが一步一步伸びていく。『(ある時点で)これができない子どもは落ちこぼれだ』という考え方は、大人に都合のよいように教育しようという教師側の理論。義務教育期間は、他人と比べずに人間のとしての土台をつくる教育をすべきだ。義務教育とその後とは同じ学力観で考えるべきではない」との考え方を示しました。学習指導要領改訂など「学力」を取り巻く状況を踏まえ、さまざまな立場から意見を出し合い、「競争主義ではなく、一人ひとりの学びにあった丁寧できめ細かな教育活動こそ必要である」とのべている。

改訂学習指導要領に対応した教育課程の編成が行われる中、子ども・地域の実態に即したカリキュラムづくりをすすめていくことが必要である。教え込むのではなく、子どもの学びを支援する教育へ、数値化された評価ではなく、自ら学ぶ視点や展望が自覚できる評価へ、多様な子どもたちが学び合える「場」づくり、自主的な活動を通じた人権学習など、子どもたちの「ゆたかな学び」を保障するカリキュラムづくりに取り組んでいくことが必要である。

また、子どもたちの心を豊かに育てるために、仲間の実践に学びながら、常に子どもたちの実態、地域の実態を考慮し工夫を施し教育課程を編成していきたいと考える。

さらに、子どもたちの学びが豊かなものとなるようにするために、子どもたちの学びの様子に柔軟に対応できるよう教育課程にゆとりを持たせたい。

そこで、本部会のテーマを「豊かで創造的なゆとりある教育課程の編成」として、研究実践に取り組んでいくこととした。

III 研究の内容

1 研究の具体的内容と方法

- ・総合的な学習の時間や教科に関わってのカリキュラムづくり（授業実践）
- ・個人的な実践の報告
- ・新教育課程に向けての情報交換
- ・外国語活動についての情報交換等

2 研究の経過

5月 8日（金）研究組織・研究の方向性(研究テーマ、研究計画、具体的方法)

5月20日（水）研究計画確認 学習指導要領改訂についての学習会

6月 3日（水）個人研究・実践の発表「井尻小の実践〈キャリア教育について〉岡先生」

6月24日（水）個人研究・実践の発表「岩手小の実践〈総合的な学習の時間〉小野先生」

- 8月 3日(月) 夏季学習会 授業案検討「日川小〈くすのきタイム活動案〉新海先生」
- 9月 2日(水) 統一授業研「日川小〈くすのきタイムの実践〈つなげよう、過去から未来へ〉〉新海先生」
- 9月30日(水) 秋季教研 レポーターの選出・個人研究・実践の発表
- 11月25日(水) 県教研の報告 個人研究・実践の発表
- 2月 3日(水) 個人研究・実践の発表「勝沼小学校〈1/2成人の取り組み〉古屋先生」
- 2月17日(水) 研究のまとめ・個人研究・実践の発表

IV 研究の成果と課題

1 成果として

- ・日川小学校の新海先生の「リーフレタス」を扱った実践の中で、子どもたちがそれまでの総合的な学習の実践の上に立って、自分たちにできる日頃お世話になった方々への感謝の気持ちを表す行動の取り組みが素晴らしかった。温暖化への取り組みの一つとして緑化を考えて「リーフレタス」を栽培し、それから発展して、日頃お世話になった方々への感謝を表す方法として、それをプレゼントした。その活動の中で、児童の自尊感情や自己有用感を身につけさせることができた実践であった。
- ・授業後の研究会では、教職員が素材を教材として利用可能なものか見分けていく眼力を持つことの重要性が指摘された。「リーフレタス」の小さな種から、子どもたちと地域の方々との結びつきまで発展させた授業者の力量が評価された。
- ・少人数の部会ではあるが、授業研究を行って検証できてよかった。実践の積み重ねができ、継続性が図られた。
- ・研究会の都度に、教育課程や教育時事、あるいは、教育全般に係るニュースや文献、参考資料等が提示されたことが大変よかった。日常の教育活動に生かせる有益な情報が多く、とても参考になった。特にキャリア教育に関する情報については課題意識を持つきっかけになった。
- ・各校の実践還流報告がとても成果があった。特別活動の取り組みの様子を知り、本校の来年度の行事計画策定の際に参考にできた。また、どの学校でも、探究的な学習活動に使える時間数が少なくなっているなか、工夫している様子を知ることができ、大変参考になった。
- ・勝沼小の授業実践では、「子どもを鍛える」という古屋先生の強い思いが表わされていて、その願いが活動を通して具現化されていく様子を見ることができ、大変刺激を受けた。とてもダイナミックな学習活動で、教師の「ずく」が子どもたちの学習意欲に与える大きな影響力になることを痛感した。今後の指導に生かしたい。

2 課題として

- ・もっと大勢の人に部会員になっていただき、広く実践を求めたい。
- ・総合的な学習の時間の本来の理論(不易)を常に確認し、新しい実践(流行)を重ねていきたい。

(部長 鈴木 英仁)